

平成27年度

YURIKAGO通信 冬休み号

H27.12.21 東京ゆりかご幼稚園

★本日、新しいパンフレットを整理袋で持ち帰りました。ご確認ください。



2015年、皆様に感謝

新園地での2年目となる2015年、環境の維持と充実、それに伴って自然を活かした教育内容の充実が望まれる1年でした。

環境面では日常的な子ども達の関わりはもちろん、「鉄腕クラブ」や「お花クラブ」をはじめとする保護者の皆様のご協力によって、子どもたちの遊びや活動がより豊かになってまいりました。そして自然の中で遊び、その恵みを生活に取り入れ、教育に活かすというESD(持続可能な開発のための教育)の考えの下、日々ワクワクする活動が見られるようになりました。改めて自然の有り難さと、保護者の皆さまのご協力の有り難さを感じております。

自然の中では、その季節、日、時、天候でなければ出会うことのできない場面、体験することのできない事象が多いため、決められたカリキュラムの中においても、しなやかにその場面に応じた保育の舵取りが必要となります。こうした意味からも、町なかの幼稚園と比べると、当園では保育者の感性や対応力の高さが求められます。今後も教職員一同、この環境を活かした教育の質を高め、子ども達の成長に繋げていけるよう努力をしております。明るく年々、保護者の皆様のご理解とご協力をよりよくお願い申し上げます。



2016年も子ども達の「笑」に包まれますように

先日の鉄腕クラブで1年の労作納めと共に、門松を作りました。園で収穫した稲わらを巻くところからの根気のいる作業、しかも初の試みでしたが、Yurikagoらしい見事な門松ができました。正門の両端に設置しておりますのでご覧下さい。

門松は新年の神様を招く際の目印になると言われています。「松は千歳を契り、竹は万代を契る(松は長寿を約束し、竹は繁栄を約束する)」と言われ、梅と併せ松竹梅でめでたいとされてきました。もとは中国の画題の一つである「歳寒三友」に由来し、厳寒に耐え一年中緑を保つ松の持久力、真っ直ぐに伸びる竹の生長力、百花に魁けて花を開く梅の生命力から、「寒い冬の三つの朋友」として描かれてきました。いかなる困難にも耐え忍ぶ姿は、私たち人間の生涯をも重ねて見てまいります。また、北風を物ともせず笑顔で元気に遊ぶ子ども達にも、松竹梅に通じる逞しさや美しさを感じます。

また、門松には七五三という数が意味を持ちます。三本の竹の長さは7:5:3の比率。稲わらを荒縄で縛る際は、下から七回、五回、三回と巻きます。長い竹と7回巻いた荒縄を男性、短い竹と3回巻いた荒縄を女性に例え、真ん中である竹と5回巻いた荒縄が仲を取り持つという縁起物で2で割り切れないおめでたい比率で出来ていると言われております。しめ縄を「七五三縄」と書いたり、七五三のお参りのように、この数は縁起のよい数として用いられますね。そういえば、ゆりかごの地番も「七国三丁目50番」でした。来年も子どもたちの成長の節目をあたたかく見守る場所であり続けたいと思います。

門松の竹の切り口(そぎ切り)が「笑い口」に見える事と思います。これには「笑う門には福来る」の意味があります。2016年も子ども達の笑いが耐えない1年となりますように。



音楽会

日頃の取り組みの成果が発揮された音楽会。子ども達の大きな成長をご覧頂けたものと思います。大勢の皆様にお越し頂き、沢山の拍手を頂きましたこと、そして当日までご家庭にてサポートを頂きましたこと、心より御礼申し上げます。音楽会が終わってからも楽器遊びを楽しんでいます！



ビオトープコンクール授賞式・事例発表会への参加

ゆりかご通信12月号でお知らせしましたとおり、全国学校園庭ビオトープコンクールの授賞式と事例発表が、1月31日(日)に東京大学伊藤謝恩ホールにて行われます。

事例発表は10分間ですので、園長より子ども達のビオトープをはじめとする自然や生命との関わりについて発表する予定です。しかし貴重な機会ですので、園児もステージに登壇できないかを事務局に確認しておりましたところ、園児10名程度であれば登壇可能とのお話を頂きました。そこで、園児を代表して年長さんの希望者に登壇して頂き、約2~3分程度ではありますが、日頃園庭で歌っている「小さいのち」という歌を菊池のギターにあわせて披露できればと考えております。

会場が文京区ということで遠方にはなりますが、ご都合がございましたら是非ご参加頂ければと思います。ただし人数の関係上、お申し込みが多い場合は先着10名程度とさせて頂き、少ない場合は年中さんにもお声をかけさせて頂く予定です。どうぞご了承下さい。詳細・申込み方法が決まり次第、メールでお知らせ致します。

畑~調理室を振り返り

畑で栽培・収穫した野菜が調理室での調理を経て給食にできる形が定着してきました。調理師さんも「子どもたちが喜び、食に興味を持てるように...」と自園野菜の利用を積極的にご協力頂いております。有り難いことです。

先日、スーパーアルプスで行われた年長さんの食育体験教室では、園児の野菜や食育に関する知識・意識が更に高まっていることに驚かされました。子ども達もクイズの問題が簡単に感じたようで、インストラクターの方も大変驚かされていました。

1・2学期を経てわかった事は、給食に出る自園野菜の種類は多すぎても良くないということです。1食の中に3種類以上あると興味が分散されますので1~2種類が適当なのでしょう。

また、職員室にやかんを取りに来るお当番さんの役割が重要です。やかん置き場に貼ってある、その日の自園野菜の絵を見て覚え、保育室に帰りみんなに伝えるという役割があります。「今日はお弁当箱の中に が、お味噌汁に が入っています！」とクラスのみんなに伝えます。それを聞いた子ども達は一生懸命その野菜を探し、「あった！これ僕が今日収穫した だよ！」等と伝え合います。こうした子ども同士のやりとりが食への興味を更に広げていき、また畑に足を運ぶという好循環に繋がります。畑(新野さん)・調理室(調理師さん)・職員室(お当番さん)を園児が行き来し、関わりながら食農教育の好循環が生まれています。付け加えて、年長さんのお当番さんが、食後に調理室でた野菜くずを堆肥場所に運び、撒く作業があります。ここで熟成した堆肥が畑の土に入っていきます。

3学期は、畑から野菜が減る時期ですが、これによって冬には自然環境下で野菜が育ちにくいことを知るきっかけになります。ビニールハウスという考えもありますが、「旬」を始めとする四季や気候を感じ、理解することが大切ですので、敢えて行いません。その代わりに、大根を漬け込んだり、冬場の保存食野菜への取り組みなどを通して、食への興味の幅を広げていこうと思っております。



クリスマス会

子ども達が楽しみにしていた「クリスマス会」。ホールでクイズや劇を楽しみ、サンタとお歌を歌ったり、プレゼントをいただいたり、、、楽しく過ごしました！



年長さん かいこの糸で作った「行灯」が受賞!

年長さんが育てたかいこの糸で作った大作!「行灯(あんどん)」が横浜のシルク博物館で行われたコンテストで賞状を頂きました!その名も「キラキラかいこ賞」。年長さんが一生懸命糸を紡いでいた姿が思い浮かびます。1月まで同博物館で展示されています。横浜にお出掛けの際はお立ち寄り下さい!本日年長さんにはミニチュア賞状付きの入場券をお配りしています。
⇒素敵でしょ!(賞状と一緒に)



鉄腕クラブ 報告

11月...コナラじいさん遊び場整備&葉っぱのプール作り



11月の活動では、コナラの木の周りの草刈りをし丸太を運んで遊び場を作りました。また、森の広場で落ち葉遊びができるよう竹を使い葉っぱのプールを作りました

年中 勤労感謝訪問 みなみ野消防署へ

日頃のお礼に消防署に伺いました。消防車に乗せて頂いたり、仮眠室を見せて頂いたり、沢山触れあい、お話しを聞き、たっぷりと学んで頂くことができました!早速「将来消防士さんになる」と夢を抱く子もたくさん!署長さんをはじめ署員の皆さんに大変お世話になりました。



12月...フェンス塗装、小川の整備、門松作り



年末の労作納め。寒い中ご協力頂きありがとうございました!フェンスも、小川もキレイになり、見事な門松も完成しました!

年長 勤労感謝訪問 アルプスで食育体験教室

年長さんは日頃のお礼と食育体験教室を目的に兼ね、スーパーアルプスに出かけました。インストラクターさんから食に関する様々な話を聞き、実際に買い物体験をして知識を深めました。



年長 陶芸野焼き

年長さんが陶芸粘土で作った作品を、野焼きで焼き上げました。火のあたり具合、粘土の厚さなどの条件で、それぞれに個性的な色合いの素敵なお皿が完成しました!



年少さん チューリップ、小麦の栽培

クラスカラーのチューリップ球根お部屋前に、棚田上の畑には小麦の種を蒔きました!



12月の活動いろいろ



コナラ広場で隆大先生のお父さんのロープ遊び

新しいロープ斜面遊び場と、葉っぱのプール



年長えび芋・ほうれん草を茹でていただく

クリスマス制作

仲良しの雄キジ2羽を観察する子ども達



陶芸に使った石の写生。その石を池周りに設置。川に拾いに行き行って石で遊び、陶芸に使用し、愛着のわいた石。よく使いこみました。

学期末の大掃除。雑巾がけは運動遊びでもおこないました。

砂場の遊具の掃除。一年間有り難う!